

IMF サーベイ

世界経済見通し分析

IMF、原油価格の高止まりを予測

IMF サーベイ・オンライン

2011年4月7日



スーダン南部の石油掘削基地。世界の原油供給状況の改善の足取りは鈍化：IMFは、供給能力の強化は早急には望めないとした（写真：Roberto Schmidt/AFP）

- 生産に制約が生じており、原油供給の拡大の足かせに
- 中国を筆頭とした新興市場の成長が需要を押し上げ
- 拡大する原油不足への調整の促進が政策課題

国際通貨基金（IMF）は、原油価格は当面高止まりする可能性が高いことから、各国政府は再生可能なエネルギー源の支援を検討する必要があると指摘した。

世界経済見通し（WEO）の一環で発表した分析の中で IMF は、新興市場の原油需要が先進国に急速に追いついてきており、また一部の石油輸出国の油田が古くなっているなど原油生産に制約が生じ影響を及ぼし始めていることから、世界の原油市場は、原油不足が拡大する時代に突入したと述べた。

投資のネックなどの制約があることから、原油供給の状況の改善の足取りは鈍く、IMF は、原油の純供給能力の強化は早急には望めないと述べている。

原油不足について検証している章では、供給制約の世界経済への中期的リスクを評価している。原油供給のマイナスのショックが長引いた場合、世界の産出高が縮小し、原油輸出国の歳入が拡大し、世界の資本フローの急増と、経常収支の不均衡が拡大する可能性がある。

主要エネルギーとしての原油

原油は一次エネルギーの約 33% を占めるなど、依然として世界で最重要な一次エネルギー源である。石炭と天然ガスという他の二つの化石燃料は、それぞれ 28%、23% を占める。IMF の分析によると、再生可能なエネルギー源が急成長を見せているものの、一次エネルギーの供給に占める割合は未だ僅かである。

能力の制約があるものの、IMF は、原油不足が必然的に世界成長の大きな障害になると結論付けるのは早急だと分析している。

IMF は「我々のシミュレーション分析は、他の供給見通しとも合致しているが、これによると、段階的かつ穏やかに原油不足が進行した場合、中長期的には世界成長への影響は小さいと考えられる」としている。特に、原油供給の伸び率のトレンド

が、想定外に1%ポイント（1.8%から0.8%）と大きく減少した場合でも、世界の年成長率の縮小は、中長期的に0.25%未満に過ぎない。

一方で、IMFはWEOの中で、原油不足あるいはその成長への影響が一段と著しいこともありえることから、このような世界経済への穏やかな影響を当然だと受け止めるべきではないと指摘している。

地政学的リスクなど原油供給のリスクは、原油不足が一段と深刻になり、大規模な変化が突然起こる可能性もあることを示している。世界成長へのマイナスの影響も比例して大きくなるだろう。

さらに、再分配と部門シフトを考えれば、世界経済が、IMFの予測通り、拡大が続く原油不足に対し円滑に調整を行うことができるかは不透明である。原油不足が更に進んだ場合、原油集約度が高い部門で働く労働者にマイナスの影響を及ぼし、利益も減少する可能性がある。原油集約度が低い部門の生産を拡大することで、次第にこれらの損失の一部を相殺することになるが、それに伴う変化への抵抗が考えられる。また、原油不足はコストの上昇や生産性の低下を招くのみならず、生産性の伸びを抑制する可能性もあることから、さらに大きなマイナスの影響も懸念される。

供給ショックへの影響

原油供給のマイナスのショックが長引いた場合、経常収支の不均衡の拡大を引き起こし、世界経済をさらに不安定なものにする可能性もある。これは、経常収支の不均衡の拡大と大規模な資本フローに関連するリスクの軽減の必要性を明確に示しているとIMFは指摘している。

また、金融部門が金融部門の安定性に極めて重要なこのようなフローの効率的な仲介機能を担うことから、同部門の改革の継続も不可欠である。

政策措置

原油不足の影響を緩和する上で必要な政策措置は、大きく2分野に渡っている。

- 原油不足が想定外に大きく拡大することもあることから、政策当局は、現行の政策枠組みが、そういった事象への調整を促すものであるか見直しを行う必要がある。相対価格と資源の調整を促進するマクロ経済政策と、価格シグナルの役割を強化する構造政策が望ましいと考えられる。
- 持続的な代替エネルギーの開発など、原油不足のリスクを低減する政策を検討する必要がある。